平成十九 中入 ［後期］ 国語科 （その一） 金蘭千里中学校

解答はすべて（その八）の解答用紙に記入しなさい。

① 釣りが好きな「僕（かじお）」は、「ショウセイ」と呼ばれる日本語を話せるロシア人の老人と港で知り合った。ショウセイの孫娘「カチューシャ」はロシア人と日本人の血をひく美少女で、かじおと同じ高校に通っている。

ある日、かじおが級友から借りた戦車のカタログを持っているのを見て、ショウセイは顔をくもらせる。その表情が気になったかじおは、カチューシャに事情を聞く。次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「やっぱりその、ショウセイは昔、戦争に行ったのかな。そうだとしたら、そのときのことを思いだしたくなんてないよね、きっと……」

「そうなんじゃねえ」カチューシャはぶっきらぼうに言うと、僕の手元に顔を寄せた。

「おっ今日は豚の生姜焼きかあ。クラスの女子どもって肉嫌いのやつが多いんだよなあ、こんなにうまいのにさ。またaセンノウしてやんなくちゃ、野菜ばっか食べてるとお肌かさかさになるわよんてね」

カチューシャが話題をそらそうとするのがわかった。でも、僕は知りたかった。ショウセイに嫌な思いをさせないためにも、何かこたえを導くものがほしかったのだ。

「ショウセイ、昔のことは忘れたなんて言ってるけどさ。本当は覚えてるんじゃない？」

「忘れたって言ったんなら忘れたんだろ。①じいちゃんボケ入ってっからなあ、昔から」

「カチューシャは何か知ってる？　その、ショウセイの、戦争の話。何かあったとか？」

「かじおって、なんかくどくない？　ねちっこい男は嫌われんぞ。知らないよ、あたしだって、そんなくわしいこと」

「知ってることだけでいいからさ、話してほしい」

「しつこいなあ」

僕がねばると、カチューシャはbコンマけしたように、わざとらしいため息をついた。

「昔むかし」唐突に、彼女が口をひらく。

「え？」僕は、ふいにしずけさを浮かべた彼女の顔をながめた。

「それはそれは愛し合っている男女がおりました。ロシアの片田舎の小さな村で出会い、たちまち恋に落ちたのです。二人が未来の夢を語り、結婚を誓いあったその頃、おそろしい戦争がはじまりました。ナチスドイツ軍は美しい村や町を侵略し、青年は故郷を離れ、戦地へと向かいました。戦争は長びき、日々は寒さと飢えと恐怖との戦いでした。兵士はロケット砲を積んだトラックの上で、遠い地の恋人を思って歌うことで毎日を耐えぬき、また残された娘も、川岸で兵士からの便りを待ちわびながら、歌いましたとさ」

おしまい。カチューシャは、おとぎ話をcロウドクするような口調で、淡々と話し終えた。

「これが②カチューシャって歌の内容。ほら、じいちゃんがときどき口ずさんでるだろ」

「ああ」と思いあたる。出会ったときに、港でショウセイが奏でていた旋律。カチューシャという曲だったんだ。

「第二次世界大戦のときに流行した歌なんだと。（　A　）センチメンタルだよなあ」

「歌の話、なんだ」ほっとしたような、気がぬけたような気持ちだった。

「歌のなかだけじゃないよ」彼女は、③僕の顔をまっすぐ見つめ、抑揚のない声で言った。

「当時いろんな場所で当たり前に起こった話さ。恋人と離れて兵役につく若者の数なんて数え切れないほどいただろうし、じいちゃんもそのひとりだ。大勢の兵士に加わり前線で国を守り、親友をシベリアで殺され、恋人をなくした。そのうちのひとりでしかないよ」

「……ショウセイの恋人は、死んじゃったの？」

「④それだったら、哀しく美しいお話だよなあ」カチューシャは、淋しげに顔をそらした。

けれど僕にとっては、カチューシャが話してくれたことも、ひどく哀しい物語だった。

モスクワを守るソ連軍は、各地で苦戦をしいられていた。侵略や略奪や放火、そんなおそろしい光景や銃弾をくぐりぬけ、どうにか首都は危機を逃れ、ショウセイは故郷に戻ってきた。雪におおわれた原野を、凍えた足をひきずり歩きつづけられたのは、恋人に会えるという思いからだ

★

受検番号	

平成十九 中入 ［後期］ 国語科 （その二） 金蘭千里中学校

った。けれど彼女は、村を去っていた。年上の金持ちと結婚した彼女が、（注1）黒海のほとりの町で幸せに暮らしていることを知った。

恋人とだけでなく、家族ともよく夏の休暇を過ごしたその美しい地を、ショウセイは二度と訪れようとしなかった。

「その後じいちゃんが出会って結婚したのが、おばあちゃんだったってわけ」

「そう、なんだ」

「あたしはおばあちゃんの顔も知らないけど、きれいでやさしいひとだったらしいな。でもじいちゃんは、婚約者のことを片時も忘れなかった。家にも（　B　）帰らず、（注2）ウォッカを飲み歩いたりふらふら旅にでては、おばあちゃんが死ぬ最後の最後まで哀しませたんだ。あたしのパパはたぶん、家族を心底愛さなかった自分の父親をどっかで憎んでたんだと思う。でもパパも（　C　）じいちゃんの子さ。父親と同じようにふらふら生きて、家族を（　D　）捨てちまったんだからさ。あのひとが、パパが、消える前に最後にしでかしてくれた厄介事って、なんだかわかるか？」

黙って、首をふる。ショウセイの後ろ側にひそんでいた世界が一気におしよせてきたようで、息苦しさを感じた。一方で、知りたくて焦がれる気持ちをもてあました。

「モスクワの公共住宅地でアル中になりかけてたじいちゃんを、ロシアから呼び寄せたってことだよ。最後に親dコウコウでもしとくかって、気まぐれでも起こしたんだろうな。でも結局、妻と娘だけでなく、あのひとは親も捨てたんだ」

灰色の雲から、ぽとりぽとりと大粒の雨つぶが吐きだされる。雨足はたちまち強まり、渡り廊下に沿って植えられた灌木の濃い緑を濡らしていく。どこかで、雷鳴が響いた。

「じいちゃんは今じゃ、昔の話なんてほとんどしない。マジで忘れてんじゃないかな。いや忘れるって決めて成功したんだ。つらい思い出を呼び起こす歌以外はね」

「つらくて哀しい記憶のはずなのに、どうして歌ったりするんだろう」僕は首をひねった。

「哀しくったって、本当はすげえ、大事なもんだから。じゃないかな」

「そっか」と、うなずく。誰かを愛したなら、きっと捨てたい記憶だけじゃないはずだ。

「じいちゃんが本当に忘れたかったのは、とっとと金持ちと結婚した恋人や戦争のつらさだけじゃなく、自分じゃないのかな。自分のなかにひそんでたものじゃないかってさ」

僕は黙って、カチューシャの言葉のつづきを待った。

「やさしいひとなんだ、じいちゃん。ばかがつくくらい。だからこそ、敵陣にロケットを撃ちこんだり、妻を最後まで苦しめた自分自身を、ゆるせなかったんじゃないかな」

「……戦争のせいかもしれない」⑤僕の押しだした声は、頼りなかった。

植え込みの葉を叩く水滴の音に消されそうなくらい。遠い雷鳴のせいだろうか。耳をすませば、ロケット砲の凶暴な響きが、聞こえてくる気がした。

誰かを傷つける残酷な音を聞きつづけたら、からだのどこかが麻痺してしまう。追いつめられたように何もかもから逃げだしたくなるんじゃないか。

そんなことを、ただ感じてた。

「そうかもな。でもさ、⑥あたしには正直、戦争のことなんてこれっぽっちもわかんねえ」

あたしなんてさあ。カチューシャは、淡々とした声でつづけた。

「のんきで平和な国に生まれ育ったそこらのギャルでしかないし。テレビで戦場が映れば怖いと思うけど、翌日には忘れちまう。戦争なんてはるか遠い地の出来事でしかないよ」

「僕だって、おんなじだ」

僕もつぶやく。教室で戦車のeモケイを振り回してるみんなもきっとそうだ、と思いながら。

「だよな。でもこれだけは、何があっても忘れない。じいちゃんはあたしには大切な家族なんだ。あたしが小さい頃覚えてるのは、朝から晩まで必死で日本語を覚えるじいちゃんのすがたさ。知らない国に連れてこられ、それしかできることがなかったんだな。あたしはじいちゃんにひらがなとロシア語を一緒に教わったんだ。自分の親じゃなくね。けっこう楽しくてさ。……あのひとを哀しませたり怖がらせるものは、あたしはどんなことがあっても叩っこわす」

★★

受検番号	

平成十九中入　［後期］　国語科　（その三）　金蘭千里中学校

「いさましいんだなあ」自分の笑い声が、か細く響いた。
「やば。（注3）香坂のヤンキー魂、うつっちまったかな」
照れたようにそっぽを向くと、彼女は植え込みのほうに足をひょいと突きだした。
すべすべした肌の上を、屋根から落ちる雨のしずくが、次々にすべり落ちていく。
「⑦ひゃーつめてえ」
はしゃぐカチューシャの目のなかにも、雨が映っている。

（野中ともそ『カチューシャ』一部改めたところがある）

（注1）黒海…ロシアとヨーロッパの近くにある内陸海。
（注2）ウォッカ…ロシア産の強いお酒。
（注3）香坂…かじおとカチューシャの男友だちで、クラスの問題児。

（一）波線a～eのカタカナを漢字に改めなさい。
a　センノウ　　b　コンマけ　　c　ロウドク　　d　コウコウ　　e　モケイ

（二）（　A　）～（　D　）に入るもっとも適切な言葉を次のア～カの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。
ア　ろくに　　イ　なおさら　　ウ　しょせん　　エ　あたかも　　オ　あっさり　　カ　やたら

（三）傍線①「じいちゃんボケ入ってっからなあ、昔から」とあるが、このように言った時のカチューシャの気持ちとして、もっとも適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。
ア　きつい言葉を使っているが、年を取ったために記憶力の低下した祖父をさりげなくかばっている。
イ　祖父が戦争に行った時の話は聞いたことがないので困ってしまい、何とかごまかそうとしている。
ウ　祖父の過去についてはあまり話したくないので、冗談を言ってかじおをはぐらかそうとしている。
エ　昔から人の気持ちを考えずにしゃべる癖がある祖父のことには、触れてほしくないと思っている。

（四）傍線②「カチューシャって歌」とあるが、この歌はショウセイにとってどのような歌なのか。次の空欄をうめる形で答えなさい。ただし（　1　）は「恋人」という言葉を使って十五字程度で考えて書き、（　2　）には七字、（　3　）には三字の言葉を本文中から抜き出して入れること。
※この歌は、青年が故郷を離れ戦地で飢えや恐怖と戦わなくてはならなかった時に（　1　）という内容のものであり、ショウセイにとっても戦地での経験や恋人との別れなど、（　2　）思い出を呼び起こす歌である。また、恋人を愛していたからこそ残っている（　3　）思い出にもつながる歌なので、今もショウセイは口ずさんでしまうのである。

（五）傍線③「僕の顔をまっすぐ見つめ、抑揚のない声で言った」とあるが、
（i）「抑揚のない声」で話している時と同じようなカチューシャの様子を表した言葉が他に二つある。1には九字、2には三字の言葉を本文中から抜き出して、次の空欄に入れなさい。
※（　1　）顔。
※（　2　）した話し方。
（ii）この時のカチューシャはどんな様子だったのか。もっとも適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。
ア　何かにとりつかれたようによどみなく話し続けている様子。
イ　怒りをにじませて普段より強い口調で話し続けている様子。
ウ　感情をなるべくおさえ、落ち着いて話そうとしている様子。
エ　おとぎ話を読むように様々な声色で話そうとしている様子。

（六）傍線④「それだったら、哀しく美しいお話だよなあ」とあるが、カチューシャがこのように言ったのはどういうことか。四十字程度で次の空欄にあてはまる言葉を書きなさい。（句読点を含む）
※ショウセイの場合は（　　）ので、哀しい話だが、美しい話ではないということ。

★★★

受検番号	

平成十九 中入 ［後期］ 国語科（その四） 金蘭千里中学校

（七）傍線⑤「僕の押し出した声は、頼りなかった」とあるが、どうしてか。考えられる理由として適切でないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　戦争をするのはよくないと結論づけたところで、ショウセイが家族や他人を傷つけて苦しんでいたことが解決するわけではないと思われたから。

イ　ショウセイの恋人が他の人と結婚した本当の理由に思い至ったが、はっきり口にするわけにはいかず、無理やり戦争のせいにしてしまったから。

ウ　実際に戦車を使ったり、周りの人々が命を落とすのを見たりしたという経験の重さにうちのめされ、うまく言葉をつなぐことができなかったから。

エ　激しい雷鳴から戦争で使われた残酷な武器の音を想像し、これまでショウセイが耐えがたい体験をしてきたことを思って悲しくなったから。

（八）傍線⑥「あたしには正直、戦争のことなんてこれっぽっちもわかんねえ」とあるが、このように言ったカチューシャの気持ちとして、もっとも適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　日本の高校生は流行の服や髪型にはくわしいが、戦争についての知識が少ないので、恥ずかしいと感じている。

イ　日本の高校生にすぎない自分がどんなに努力しても、戦争をなくすことはできないので、悔しいと思っている。

ウ　遠い国々で起こった出来事を深刻に考えるのは性に合わないので、今後も毎日を楽しく過ごしたいと思っている。

エ　遠い国々が争った事情などはよくわからないが、大切な祖父を傷つけた原因である戦争には憤りを感じている。

（九）傍線⑦「ひゃーつめてえ」とあるが、この時のカチューシャの気持ちとしてもっとも適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　祖父の哀しい過去を話しているうちに涙ぐんでしまったことが照れくさく、わざとはしゃいでいる。

イ　ひそかに憧れている香坂の口調を無意識にまねてしまったことが照れくさく、わざとはしゃいでいる。

ウ　優等生らしくない乱暴な言葉づかいをかじおに指摘されたことが照れくさく、わざとはしゃいでいる。

エ　子供の頃のみじめな自分を思い出して感情を高ぶらせたことが照れくさく、わざとはしゃいでいる。

②　次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

Ⅰ

あるとき成田空港でおかしな外国人を見た。パスポートの色からみるとアメリカ人らしい男だったが、見るからにホテルのものとわかるゆかたタイプの寝まきを着て、スリッパをはいて通関しようとしているのだ。日本の（注1）イミグレーションに「ヘンテコな格好をした人は通さない」などというきまりはないから、①ゆかたスリッパ男はそのまま待合室方向に消えていったが、当然ながら大いに目立っていた。

おそらくその外国人ははじめて日本の伝統的なキモノにふれてうれしくなりその格好で故国に帰ろうとシャレこんだのだろう。我々もエキゾチックな民族服の国に行ってそれを着るとなんだかうれしくなり、人によってはそれを着たまま帰るようなことがあるからその「ゆかた男」の気持ちはわかる。ただし彼は日本人にとってゆかたとネマキは同類に近い存在である、ということを知らなかったのだろう。

それはいいとしてそのとき②ぼくは彼のはいているスリッパ（それもホテルにそなえつけのものらしい）がもっと気になった。そのアメリカゆかた男にとってホテルにそなえつけのスリッパも、ゆかたと同じくらい気に入ったものであったのだろう。その格好でよくホテルをチェックアウトできたなあ、という疑問は残ったものの、「欧米人とスリッパ」という組み合わせは案外ａイシツなものらしい、ということにその時いきなり気がついたのだ。以来、外国へ行くたびにスリッパの存在に気をつけていたが、結論からいうと見たことがないのである。スリッパは欧米人にとってゆか

★★★★

受検番号	

平成十九中入　［後期］　国語科（その五）　金蘭千里中学校

たと同じくらい「エキゾチック」なものらしい――という視点ができた。

広辞苑には「足をすべりこませてはく室内ばき」と簡単に書いてある。『英語語源辞典』によるとスリッパという言葉の初出は一三九九年以前。『はきもの世界史』でスリッパ形体のものを見ると十七～十八世紀のミュールというのがそれに近い。イギリスのジョージ二世が着用、と説明にある。えらく高貴そうなものなのでこれをスリッパのｂソセンと見るにはいささかたじろぎがある。

日本にスリッパがいつごろ登場したかというのも諸説あるようだが、いろいろな本にもっとも多く語られているのが明治初期の文明開化期だ。これとは前後するが、当時日本で一番外国旅行をｃホウフにしていた福沢諭吉が慶応三年（一八六七年）にこれから外国へ行く人のための手引書として執筆した『西洋衣食住』『西洋旅案内』でスリッパを紹介している。けれど、日本のスリッパはこうした外国の生活事情から入りこんできたのではなく、きわめて日本的な事情によってきわめて日本的に独自に発展したものではないか、という説があり、実はこれが大変におもしろい。

Ⅱ

『（注2）おまるから始まる道具学』の著者である村瀬春樹氏は（注3）厠下駄に目をつけた。今はめったに見ることはなくなったが、ぼくが子供のころ、和式便所にはなおのない下駄のようなものを置いてあるのを時々見た。形もスリッパそのものだが、日本におけるスリッパの位置づけも実はこの「便所」が重大なキーワードになっているのではないか、というのがこの本の鋭い指摘なのである。

著者は日本人の住居の床を家具ととらえる。③日本人は床の上にじかにすわって仕事をしたり食事をしたり団欒の場としたり布団をしいて寝たりする。したがって床は常に清潔であらねばならないところである。この家具である床の上に上がるにははきものを脱ぐ。足を洗う。

昔の便所は母屋とは別のところにあった、だからそこははきものをはいていく（　Ａ　）である。やがて生活様式が変わって便所が家の（　Ｂ　）に組みこまれるようになった。家具である床続きの場所に（　Ｃ　）の（注4）概念である便所が入ってきたのである。清潔の区分をはっきりするために室内の厠下駄が必要になってきた。それが使い分けスリッパに発展していった――と説くのである。軽快ではないか。

欧米人や中国人にとって家の床は（　Ｄ　）の延長、という感覚が強いようだ。中国のレストランなどにいくと、みんな食べカスや魚の骨などをｄムゾウサに床に捨ててしまうので、びっくりしたことがある。そういう生活様式からすると、日本人の住居とその生活感覚は世界でもまれというぐらい清潔である。その清潔な床を保持するためにスリッパが必需品になった、というのはなかなか説得力がある。

日本の家庭で急速にスリッパが使われるようになったのは畳とフローリングの（注5）折衷する住宅が一般的になった昭和四十年代の団地ブームや新しい洋式住宅建築ブームあたりからしい。畳の部屋は素足で、フローリングの台所や居間はスリッパをはいて、という使い分けのエリアがひろがってきた。家族個人個人のスリッパ。客用のスリッパ。さらには便所には便所専用のスリッパが必要になってきた。かくして世界でもまれなスリッパだらけ、スリッパ文化の国になっていくのである。

Ⅲ

『春の数えかた』（日高敏隆）の「スリッパ再論」にそのことが書いてある。「日本人はスリッパを西洋の習慣と考えたがるけれど実のところスリッパは日本人によって日本風に適応されたものであり、数十年のあいだに驚くほど多様な形に進化してきた。たとえば高級スリッパというものがある。デパートなどにいくとピエール・カルダンやランバンのスリッパも売っているが、こうしたフランス人デザイナーのスリッパをフランスではまったく見ないのでおそらく日本人のためだけにデザインしたものなのだろう。」

日高氏はさらに知人のフランス人のデザイナーがこうした日本のスリッパ文化を「衛生のため」だろうと解釈し、あとで「はきものをあちこちではきかえることによって自分がいまどこにいるかを認識するためだろう。」というものに解釈を変えたという話を書いている。「これがあたって

受検番号	

★★★★★

平成十九 中入 ［後期］ 国語科 （その六） 金蘭千里中学校

いるかどうかぼくには分からないが、衛生のためという解釈はおそらく的はずれだろう。」と日高氏は書いている。ここでぼくはおおいに④わが意をえたような気分になった。

日本の温泉旅館などに泊まるときに玄関先にズラリと並んだスリッパを見るとゲンナリする。温泉に入って汗を流し、体中を洗ってゆかたに着がえてさっぱりしたあとに素足でスリッパをはく。温泉の入り口には同じ色と形のスリッパが乱雑に散らばっていてさっき自分がはいてきたのとちがう誰がはいてきたのかわからないのをはいて部屋にもどる。しかしさっきはいてきたのをはこうがちがうのをはこうが意味は同じなのである。どっちにせよどこのおとっつぁんが何万人はいたのかわからないようなバイキンだらけのスリッパなのである。

『高級ホテル・高級旅館の「罪と罰」』（小田創）というめずらしいタイトルの本を読むとこうした宿泊業の衛生管理がいかにずさんであるかということがよくわかる。たとえば我々はあまり気にしないことが多いけれどホテルや旅館の布団はほとんどほされることがないそうだ。旅館の場合はよくて布団カバーをかえる程度。枕も敷き布団も掛け布団もずっとその部屋に置かれたままのを何百人もの人が入れかわり使っているのだ。ひどい旅館になると布団カバーも十日ぐらいかえないところがあるという。したがってスリッパにおいてをや、ということになる。

現実的には⑤スリッパはそれがあることによってかえって非衛生な状況をつくってしまっている、という例がいろいろあるようだ。

（椎名　誠「大日本スリッパ問題」一部改めたところがある）

（注1）イミグレーション……出入国の審査をおこなう場所。
（注2）おまる……持ち運びができる便器。
（注3）厠……便所の古い言い方。
（注4）概念……物事に対するおおまかなとらえ方。
（注5）折衷……ちがうもの同士の良いところを取って調和させること。

（一）波線a～dのカタカナを漢字に改めなさい。

a　イシツ　　b　ソセン　　c　ホウフ　　d　ムゾウサ

（二）傍線①「ゆかたスリッパ男」のおかしさはどのようなところにあるのか。答えとなる次の文の（　1　）（　2　）に当てはまる言葉を、Ⅰ段からそれぞれ十字で抜き出して答えなさい。(1)と(2)は入れかわってもよい。

※日本人にとってはネマキに近い存在のゆかたを（　1　）ととらえ、同時にスリッパも（　2　）のようなものと思いこんでしまっているところ。

（三）傍線②「ぼくは彼のはいているスリッパ（それもホテルにそなえつけのものらしい）がもっと気になった」とあるが、「ぼく」が外国人のゆかたよりスリッパの方をおかしいと思ったのはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア　彼のはいているスリッパがホテルにそなえつけのものだったから。
イ　スリッパをはいた彼を、空港の係員が誰もとがめなかったから。
ウ　スリッパはもともと欧米のものであると思っていたから。
エ　スリッパでチェックアウトができるはずがないと思ったから。
オ　スリッパはもともと高貴な人々のはきものであったから。

（四）傍線③「日本人は床の上にじかにすわって仕事をしたり食事をしたり団欒の場としたり布団をしいて寝たりする」とあるが、これとは対照的な行為は何か。それを述べている一文をⅡ段よりさがし、文の最初の五字を抜き出しなさい。

（五）（　A　）～（　D　）には「内」あるいは「外」のいずれかが入る。それぞれ適切な方を選んで答えなさい。ただし、すべて同じ答えにしてはいけない。

（六）Ⅲ段より「いい加減で手落ちが多いこと」という意味の言葉を探して、三字で抜き出しなさい。

★★★★★★

受検番号	

平成十九 中入 ［後期］ 国語科 （その七） 金蘭千里中学校

（七）傍線④「わが意をえたような気分」について

（ⅰ）それはどのような気分なのか。次のア～オの中からもっとも適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア　同情　　イ　共感　　ウ　嫉妬（しっと）　　エ　待望　　オ　困惑（こんわく）

（ⅱ）どのようなことに対して「わが意をえたような気分」になったのか。次のア～オの中からもっとも適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア　スリッパは西洋の習慣から入ってきたと考えられているということ。

イ　スリッパは日本風に適応され、多様な形になったということ。

ウ　日本人のためだけに高級スリッパがデザインされているということ。

エ　はきものをかえることで自分の居場所を確認しているということ。

オ　衛生のために日本のスリッパが発達したのではないということ。

（八）傍線⑤「スリッパはそれがあることによってかえって非衛生な状況（じょうきょう）をつくってしまっている、という例」とあるが、

（ⅰ）ここではどのような例があげられているか。筆者のあげた例を六十字以内でまとめなさい。（句読点を含（ふく）む）

（ⅱ）「かえって」とあることから、傍線⑤は予想外の結果になってしまっていることがわかる。それでは、本来スリッパはどのような目的でうまれたとされているか。「家具」という語を用いて四十字以内でまとめなさい。（句読点を含む）

★★★★★★★

受検番号	

平成十九中入　［後期］　国語科　（その八）　金蘭千里中学校

①

（一）a　b　け　c　d　e

（二）（A）　（B）　（C）　（D）　（三）

（四）（1）

（2）　（3）

（五）（i）（1）　（2）　（ii）

（六）

（七）　（八）　（九）

②

（一）a　b　c　d

（二）（1）

（2）

（三）　（四）

（五）（A）　（B）　（C）　（D）　（六）

（七）（i）　（ii）

（八）（i）

（ii）

得点	
受検番号	

★★★★★★★★